第 63 回 CCNet 春日井局 放送番組審議会 議事録

1．開催日時　　2025 年 11 月 18 日（火）9:30～11:00
2．会場　　CCNet 春日井局 C スペース
3．審議事項　　なし
4．報告事項　　（1）2025 年度放送実績
・トピックス取材実績　取材内容 本数一覧
・特番放送実績　放送内容一覧
・企画番組放送実績　放送内容一覧
（2）番組視聴
・特集　漆、うるし、URUSHI（2025 年 5 月 16 日～31 日放送）　30 分番組
・地元企業紹介番組 できかた！「イトウふとん店」
（2025 年 10 月 16 日～11 月 15 日放送）15 分番組
・ミニ特集「小牧の若きアーティスト 奥山優さん」
（2025 年 10 月 16 日～31 日放送）5 分番組

【事務局長挨拶】
事務局長の小林が、参加へのお礼と規定改定後初の開催であること、率直な意見や提案をいただきたいことについて話した。

【放送番組審議会規程改定ポイント説明】
事務局の稲吉は、前回の審議会で審議・可決され、2025 年 4 月 1 日に改訂された「放送番組審議会規程」について、改めて、その規定のポイントを以下のとおり説明した。
・放送番組審議会の開催頻度の変更（原則年 2 回から原則年 1 回に変更）
・委員構成や議決要件の明確化（審議会の意思決定プロセスを分かりやすくする目的）
・審議会の 1 回当たりの参加報酬の変更
また、改定後の内容の詳細は別紙資料を参照していただくよう依頼した。

【委員長・副委員長の互選】
事務局長の小林より、前回まで委員長を務めていた春日井商工会議所の専務理事変更に伴い、山田前委員長への謝意を述べたうえで、後任の専務理事である鈴木夕雪委員を委員長候補として推薦した。
参加委員による互選の結果、鈴木委員が委員長に選任された。
また副委員長については、本日は欠席されているが、犬山市婦人連絡協議会の森岡万朱依会長から就任の内諾を得ている旨を説明し、委員による互選の結果、森岡委員が副委員長に選任された。

【委員長挨拶・開会宣言】
鈴木委員長が開会を宣言し、委員に活発な議論や提案をするよう求めた。

【2025 年度放送実績報告】
事務局稲吉が、2025 年度の下記実績について別紙資料を使い説明した。
・トピックス取材実績　取材内容 本数
・特番放送実績　放送内容
・企画番組放送実績　放送内容

【ドキュメンタリー番組の視聴】
事務局稲吉が、2025 年 5 月に放送した特集「漆、うるし、URUSHI」について、制作者（3 年目社員長谷川）から預かった想いを読み上げ、委員に番組視聴と視聴後の意見交換を求めた。

（委員からの感想）
・（番組内で紹介されていた展示について）知っていたら行きたかったと感じた。
・尾張漆器や番組内で紹介されていた浅井さんについて知らなかったため、知ることができたところにメディアの意味を感じた。
・アナウンスのトーンが良く、聞き取りやすくて引き込まれた。
・観客の感想のインタビューについて、もう少し違う意見も聞けるとより良い。

⇒様々な角度からの意見を収集できるようインタビュー相手や内容を工夫していく

・漆器が食器だけではなく作品にもなることを知ることができた。
・漆の作品を体験する参加者の「あたたかい」という声が聞こえて、感覚的に分かりやすいと感じた。
・浅井さんについて、浅井さんが開く教室の生徒さんなどに人柄をインタビューすると、より良かったのではないか

⇒様々な角度からの意見を収集できるようインタビュー相手や内容を工夫していく

・身近に感じることがない分野についての紹介で、地域を応援する番組だと感じた。
・伝統工芸の漆器だけでなく作る人にも着目しているのが良かった。
・以前漆の体験について話した時、かぶれ等怖いという話が出たが、現在は漆の教室もあるということで、現状について紹介があると良かった。

⇒紹介する分野が抱えている課題にも目を向け現状へも目を向けていく

・浅井さんがどういう思いで漆器作りを続けてきたかもっと掘り下げて欲しかった。

⇒焦点を絞りつつも知っている人が少ない内容については一定以上の説明をしていく

・浅井さんが祖父、父と繋いできた系譜を発展させているのが伝わってきた。

・浅井さんに本人同士ではなかなか話せない、父親からのメッセージを伝えているところが良かった。
・積み重ねて新しいものを作り、日々自分も成長していかなければならないと、自分に重ね合わせることもできる良い作品だった。
・漆器の作品についての評価を番組では述べないことで、視聴者が自分の感想を持つことができてよかったと思う。
・業種の未来について難しいものもある中で頑張っているということを伝えると、より一層その頑張りが伝わったのではないか。

⇒紹介する分野が抱えている課題にも目を向け現状へも目を向けていく

・漆器の制作過程について、もっと掘り下げても良かったのではないか。

⇒焦点を絞りつつも知っている人が少ない内容については一定以上の説明をしていく

・30 分とは思えないほど、長く感じさせられることなく番組を見ることができた。
・漆器の歴史について現代までもっと時代を追っていきながら紹介するとより良かったのではないか。

⇒時系列を現在に至るまで丁寧に追うことで歴史や流れを分かりやすくしていく

・ヒューマンドキュメンタリーとして興味深かった。
・伝統工芸や産業としての尾張漆器をもっと掘り下げて欲しかった。

⇒焦点を絞りつつも知っている人が少ない内容については一定以上の説明をしていく

・ほかの継承者の有無についても知りたかった。

⇒取材対象の独自性や現況をより鮮明にするため比較対象やその有無についても触れていく

・普段はあまり伝統工芸に興味をもってはいないが、ゆっくり見ることができる良い番組だった。
・エリア内の他の市町にも伝統工芸に取り組む人がきっといるので、どんな人がいるのか興味が湧いた。取り上げることがあれば教えて欲しい。
・工程が詳しく説明されていてよかった。地元の伝統工芸が広められるのは良い。
・浅井さんの新たな挑戦や尾張漆器の伝統について 8 か月の密着取材で丁寧に伝えていた。
・漆器の美だけでなく作り手の情熱と相違の過程が浮き彫りとなり、心に響くと感じた。
・浅井さんの地元を深く感じることができた。
・導入で尾張漆器の歴史的背景が短く整理されていて、漆や尾張漆器のことを理解しやすかった。
・小牧市公民館のリニューアルについて触れられていてありがたい。
・初めて尾張漆器について知る人もいるため、通常の作品製作を伝統芸として紹介してから、イベント作品について紹介する方が良かった

⇒「万人にとって伝わりやすい構成」について考え番組を制作していく

【企画番組・特集の視聴】

事務局の稲吉が、ミニ特集「小牧の若きアーティスト 奥山優さん」について制作者（3年目社員堀尾）から預かった想いを読み上げ、地元企業紹介番組「できかた！」（外部制作）最新回（イトウふとん店）と併せて委員に番組視聴と視聴後の意見交換を求めた。

（委員からの感想）

{両番組共通}

・字幕について、漢字で表記すべきでないところを漢字で書いていたり、インタビューの言葉の内容でテロップでは書き換えるべきところをしていなかったりしたので、配慮した方が良い。

⇒読みやすさや文字から受ける印象、避けられている表現についての理解を深め対応していく

・小中学生にぜひ見てもらいたい内容だと感じた

{ミニ特集}

・障がいの有無に関係なく奥山さんが人気になっていくと良いなと感じた。

・小牧の話題としての取り上げだったが、大口町にも関わりがあるため紹介してもらえてよかった。

・奥山さん自身か奥山さんの母親かどちらが主役なのか分かりづらかった。奥山さん自身のコメントが難しい場合、母親が話している間、隣にいてもらうなどすれば、2人3脚で取り組んでいるのが伝わったのではないか。

⇒何に焦点を当てているか映像を通して伝わるよう画面構成についてより深く考えていく

・奥山さんの絵の鮮やかな色彩やデッサンが語る彼の感情を、亡父や母の言葉により整理されわかりやすく伝えられていた。

・障害はハンデではなく、斬新かつ繊細な想像を生み出すものだと感じることができた。

・小牧市の若きアーティストを紹介してもらえてありがたい。

{できかた！}

・紹介された企業が、小学生が見学に来た時「できかた！」の映像を見せて説明していたので、活用できる良い番組だと思った。

・番組タイトルと内容があっていないように思えた。

⇒使用してきた番組名にとらわれすぎず内容との乖離がないようタイトルや構成を再考する

・番組タイトルと内容がかみ合っていなかったがこれもありだと思った。

・なかなか足を踏み入れづらいと感じてしまう企業を紹介しているのが良いと思った。

・長く使っていて何が自分に合っているか分からない布団やマットレスを紹介しているため、例えばリポーターにはどういう理由で何があっているかなど、結果を例として見せると、視聴者の来店意欲が高まると思った。

⇒過程から結果までを例として見せ視聴者が自分にあてはめて見られるよう工夫していく

・あまり触れる機会がない企業に関してクローズアップするなど、見る側にとって発見のある番組だと思った。

・リポーターの名前を出しているのに、なぜ「おねえさん」と呼んでいるのか気になった。

⇒「おねえさん」という言葉から視聴者が受ける印象を考え（個人名）おねえさんという呼び方をするか そもそも「おねえさん」というワードを省くべきか等検討していく

・商品の紹介のみだったため、番組の趣旨と違うのではないかと感じた。

⇒使用してきた番組名にとらわれすぎず内容との乖離がないようタイトルや構成を再考する

・商品の特性が分かりやすく説明されていた。

・リポーターと店主のやりとりが軽妙で好印象だった。

・若い世代（小中学生）に見てもらうと地元雇用につながると感じた。

{その他いただいた意見}

・今回の全視聴番組について、月に１回程度、教育委員会を通じて小中学生または高校生に見せることで、教育等の一環になりうると思った

【閉会挨拶】

鈴木委員長が、委員に意見や提案のお礼を述べ閉会を宣言した。

以上